



日本ルイ・アームストロング協会 ワンダフルワールド通信 No.83

日本ルイ・アームストロング協会（ワンダフルワールド・ジャズ・ファウンデーション=WJF）2014年12月発行
〒279-0011 浦安市美浜 4-7-15 WJF 事務局 TEL:047-351-4464 FAX:047-355-1004 Email: saints@js9.so-net.ne.jp
ホームページ <http://members3.icom.home.ne.jp/wjf/>
発行人 代表・外山喜雄 編集長・山口義憲 編集・小泉良夫

生ビール片手にデキシーランドジャズの熱気に酔いしれた一日

熱く！華やかに！第34回「サッチモ祭」開催

今回は中秋の10月26日、正午～午後7時半、16バンドが熱演

長い間、“ジャズの王様”ルイ・アームストロングの誕生日（1901年8月4日）と命日（1971年7月6日）を記念して盛夏に開催されてきた「サッチモ祭」(TOKYO NEW ORLEANS JAZZ FESTIVAL)だったが、会場の都合もあって次第に秋にずれ込み、第34回目となった今年の開催は中秋の10月26日。それでも外山喜雄とデキシーセインツなど計16バンドが参加、会場のエビスビール記念館（東京・渋谷区、恵比寿ガーデンプレイス）は例年に劣らぬ盛り上がりを見せた。デキシーの熱気に包まれて傾けた生ビールがうまかったこと！ みなさん、お出でになりましたか？ では、ご報告。 （小泉良夫）



「サッチモ祭」恒例の日米被災地支援パレード。今年も外山夫妻と早稲田大学ニューオールリズジャズクラブの若者たちを中心に出演者が会場を回った。天才デュオ「サファリパークDUO」もパレードに参加してくれた=写真左の中段



The34th

サッチモ祭

TOKYO NEW ORLEANS JAZZ FESTIVAL

さあ開幕！パレードが場内を巡る みなさんに支えられて今年も不動

サッチモ祭は前夜からの会場作りが大変な作業。外山夫妻、WJFスタッフ、それに“力仕事”を担当する早稲田大学ニューオーリンズジャズクラブ(以下早大ニューオリ)の面々が、重いステージ台を縦横に並べ、その上にあの鉄の塊のようなグランドピアノを設置する。ついで客席に椅子を並べる。翌朝は午前9時集合でプログラムにWJF会報82号、恵子さんのCDや早大ニューオリのリサイタル・パンフレットの挟み込み、物販用テーブルの設置、“壁新聞”の貼り込み…etc. 午前11

時半開場でお客さんはすでに入口に並んでいる。外山夫妻作成の細密な役割分担表により、缶バッジとスタッフ・カードを胸に全員が配置につく。さあ開場！



正午開演の前に外山夫妻と早大ニューオリ(今年は伊藤遼河マネージャーら40人が参集)による開幕パレードが拍手を浴びて会場を一巡。被災地支援パレードは、3回の休憩時間に出演バンドの応援も次々と加わって、賑やかに膨れ上がっていく。手かごを持った学生さんに“愛の手”が差し伸べられ、お礼にWJF特製サッチモ・コースターが手渡された。で、この日の義援金総額は計16万円超にのぼった。皆さん、ありがとうございます！！

今年のMCTリオは、外山喜雄・恵子夫妻と飯塚さち子さん。飯塚さんは高田馬場でライブハウスをやっていて、元ドラムカーズのボーカリストでもある。例年司会でお馴染みの山口義憲さんは、お仕事が入ってしまい今回はパス。それにしても外山夫妻は、総指揮、司会、パレード、演奏、挨拶回り、諸々の雑用…何から何まで大忙し。

今年、例年通り早大ニューオリのヤングパワーが炸裂、コンサートがスタートした。以下、サッチモ祭プログラムに寄せられたアンケートを参考に出演順にバンドをご紹介します。

正午、例年通り早大ニューオリのヤングパワーが炸裂、コンサートがスタートした。以下、サッチモ祭プログラムに寄せられたアンケートを参考に出演順にバンドをご紹介します。

(敬称略=写真の○数字は出演グループ・の○数字に対応)

①早稲田大学ニューオーリンズジャズクラブ

白石修一(Tp) 落合勇人(Cl) 岡田義規(Tb) 吉岡拓人(Bj) 神田智明(P) 後藤建大(B) 大西政徳(Ds)

20年代からリバイバルにかけてのトラディショナルジャズを研究、演奏するサークル。この日はバンク・ジョンソンやジョージ・ルイスのような、泥臭く、魂のこもった演奏を聞かせてくれると言っていた。若さあふれた演奏。



②ナッチェス・ジャズバンド

金子正人(Tp) 白戸 彩(Cl) 久保 敦 (Tb) 石井昌紀(Bj) 石塚 宣(B) 佐々木憲(P) 林 宏明(Ds)

1980年、それぞれのニューオーリンズに対する熱き想いを胸に活動を開始。ニューオーリンズ・ジャズは“音のカラージュ！”一人一人の個性を大事にしながら、温かな調和のとれたサウンドを心がけています…と。

③ジャミング・ホットセブン

鈴木正晃、八野治之(Tp) 塚原 眞・石井久義(CI)
後屋敷敏治(Tb) 白川正躬(Gt, MC) 柴田耕一・長島 雅(Bs)
神田篤身(Ds)

1960年～70年代、明治大学軽音楽クラブで演奏したメンバーを中心に、2006年再結成したOBバンド。50歳代から70歳代の先輩・後輩が集まりJAZZを楽しんでいるそうだ。昨年、初めて「サッチモ祭」に参加。

④ドランカース

皆川晴樹(Tp) 倉田 学(CL) 横溝良和(Tb) 田中 康(As)
坂上順子(P) 新井健太郎(B) 飯泉友章(G) 山口 均(Ds)
花れん(Vo) 栗生清貴(MC)



全員が早大ニューオリOBで還暦を過ぎたメンバーが大
半とか。Tp, CI, Tb, Asの4管とリズム隊の賑やかなデキシー
アンサンブルとちょっと聴かせるソロ。今年もみなさんお待
ちかねの“花れん”が素敵な歌を届けてくれた。

⑤ザ・サーフサイド・ストーンズ

岡野 宏(CI) 松居克彦(Bj) 鈴木 悟(Tb) 前田健次(Ds)
中島由雅(P) 福澤 宏(B) 篠森富江(Vo) 白松 徹(Tp)

お客様もメンバーの一員、一緒に飲んで騒いでステ
ージを盛り上げてくださると。慶応義塾大学デキシーランド。

ジャズ・クラブのOB/OGを中心に構成されたご機嫌なユ
ニット。1991年夏の結成以来24年目をむかる。

⑥古川奈都子ソウルフード・カフェ

古川奈都子(P, Vo) 海付 豊(Sax, CI) 曾我清隆(Tp)
中村好江(Tp) 石原由理(Tb) 小林真人(B) みのみや俊介(Ds)

ニューオリンズの暮らしの中に息づいているジャズを現
在進行形でお届けしていきたいと。今年8月に2回の韓
国公演を行い、好評を博す。横浜で夏と冬に「横浜ニュー
オリンズフェスティバル」を開いている。

⑦ドクター・テキシーセインツ

小倉 愈(CI) 折橋 健(Tb) 高本正吏(Tp) 太田忠興(Bj)
福澤宏昭(B) 三嶋淳子(P) 大村 薫(Ds) 河角小枝子(Vo)
萬成 修(Tu 司会)

再結成後20年を越えたバンド。東京医科歯科大学の
学生バンド旧メンバーが青春時代を顧みて、他校の友人
達をも誘い復活、演奏スタイルは特にこだわらず(こだわ
れず?)ハッピーにスイングすることがモットーとか。

⑧テキシー・ダンティース

高相徹(Tp) 今井惣一郎、菅野天津男、山下剛三(CI)
川上和祺(Tb) 中島由雅(P) 小松壮夫(Bj) 山下晶朗(B)
前田健次(Ds) 村井健一(Vo)

ダンディーズを名乗ってから50年を迎え、今年4月に
新宿「銅鑼」でパーティーを催す。皆さんから「55周年に
も来るから頑張れよ」とのお言葉を戴き、少なからず高揚し
たものです。

⑨ニューオリンズ・ノーティース

大松澤晴実(Tp) 橘 克彦(CI) 横田昭夫(Tb) 鈴木 文(P)
山口尚記(Bj) 西谷晃男(B) 東城弘志(Ds)

今年結成、50周年。バンク・ジョンソン、ジョージ・ルイス
のレコードに触発され、50年…個人プレイ(ソロ)中心では
なく、合奏(アンサンブル)が主体でゆったりした、全体で
の暖かいサウンドを作ることを目指しているという。

⑩セカンドライナーズ

北浦康司(Tp) 田村麻紀子(CI) 近藤雅峻(Tb) 北川智子(Ds)
田中丈士(Bj) 田島大樹(Sou) 上山 実(P)

ここでしか飲めない「サッポロビール」を飲みすぎて、不
覚にも、皆さまの前で“気絶”してしまった年もありました。
決して皆さまに喜んでいただこうと思つてのパフォーマン
スなどではなく、「サッポロビール」が美味すぎるからなん
です…と。

⑪バンジョー・ストーンパーズ

長谷部廣行、後藤洸作、ましゅ、北條禮子、河野文彦、町野英明、
高島秀文、初瀬肇(Bj) 小嶋伸元(Tu) 前田健次(Ds)

首都圏の4弦バンジョーマニアが集まった日本では希
少な大人数のバンジョーバンド。バンジョー11名、テュー
バ1名、ドラム&ウォッシュボード2名。目黒、世田谷、相模
原、川崎など、地域のイベントに出演している。

⑫ハイタイム・ローラーズ

曾我清隆(Tp) タイロン安在(CI) 芳村武郎(Tb) 上山 実(P)
五味伯文(Bj) 根岸潤一郎(B) ケニー須崎(Ds)

今年で結成15周年。10月から関内のジャズバー「アド

リブ」に毎月第1土曜日に出演。浅草HUB、西荻ミントンハウスにも変わらず出演。今年は、毎年12月恒例の早稲田のリサイタルにゲストで招待されている。

⑬ニューオリンズ・ジャズハウス

加藤晋一(Tp) 新谷研介(Cl) 山本広介(Tb) 守屋雄策(Bj)
東海林幹雄(P) 伊藤譲一(B) 吉井哲嗣(Ds)

「ジャズで世界が友達になろう！サッチモ祭」ありがとうございますと。一昨年12月ニューオリンズからトランペッター、グレッグ・スタッフォードを招き、2枚目の共演CDがリリースされた。

⑭大丸リュニオン・ジャズメン

肥後崎英二(Cor) 渡辺 毅(Cl) 西塚英典(Tb) 東海林幹雄(P)
田頭京一郎、坂本 誠(Bj) 大村 薫(Ds) 関野恒夫(B)

1965年ニューオリンズ・スタイルの大丸東京店カンパニー・ジャズバンドとして誕生した。現在もそれぞれ別のグループで活躍中。サッチモ祭ではメンバーが再会(リュニオン)、当時の50年代～80年代のスタイルでの演奏を頑固に守り続けている。

⑮テキシー・ショーケース

下間 哲(Tp) 菅野天津男(Cl) 加治雅也(Tb) 坂本 誠(Bj)
今村直子(P) 寺門和宣(B) 小出芳明(Ds) グレース美香(Vo)

10月8日～10日浅草「にんげん座」公演に参加して、終戦直後のバンドマン役を務めた。今年のサプライズにはボーカルのグレース美香さんが参加。素晴らしいボーカルとパフォーマンスを披露してくれた。

⑯外山喜雄とテキシーセインツ

特別ゲスト:水森亜土(vo)&ローズマリー・ダンサーズ
外山喜雄(Tp,Vo) 外山恵子(P,Bj) 粉川忠範(Tb) 鈴木孝二(Cl)
藤崎羊一(B) サバオ渡辺(Ds)

特別ゲストの水森亜土さんはイラストレーター、画家、女優、ヒミツのアッコちゃんからジャズまでを歌う歌手。サッチモ、ニューオリンズ、ブルースが大好き。高等学校を経てハワイに遊学し、英語とジャズ、ハワイアンにふれる。

NHKのテレビ番組「たのしいきょうしつ」で、歌いながら両手でイラストを描き、カラフルでキュートなイラストやグッズも大流行。ライフワークであるジャズのライブや、全国各地でイラスト並びに、油絵の個展を開催している。

ジャズライブでも外山喜雄とテキシーセインツとスウィング、キュートなダンスグループ、ローズマリー・ダンサーズも登場するショーが、人気を呼んでいる！この日も美女2人をともなってお目見え(写真右上)。このお2人、ステージでは惜しげもなく美脚を高々と上げての熱演。前列のお客さんはいったい視線をどこへ向けたらいいのやら…。

さて、テキシーセインツ。外山喜雄、恵子夫妻がニューオリンズで5年間のジャズ修行(1968～1973)を終え、帰国後の1975年結成された。来年は結成40周年！

以後、ドン・ユール、アルトン・パーネル、ワイルド・ビル・

デビソン、ラルフ・サットン、バリー・マーチン等トラディショナルファンに人気の高いジャズメンを、初めて日本に招聘。サーチャールズ・トンプソン、ジミー・スミスらとの共演も人気を呼ぶ。



例年、ニューオリンズで開催されている本場ジャズの夏祭り「サッチモ・サマーフェスト」には2003年以来、今年で12年連続の出演。『ニューオリンズの子供達へ楽器を』の活動、ニューオリンズのハリケーン被害復興支援、そして東日本大震災で結ばれた日米子供たちの交流…皆様の応援をいただき、ジャズを通じた日本とニューオリンズの草の根交流に大きな貢献をしている。

今年初め念願の外山恵子初リーダーアルバムが発売された。ここだけの話。来年、夫妻は結婚50周年「金婚式」を迎えます。



デキシーセインツの演奏に先立って、ご両親と共に横浜から駆けつけてくれた可愛い天才デュオ「サファリパークDUO」＝野村琴音(ことね)さん(高校1年、トランペット)と郷詩(さとし)君(小5、ピアノ)姉弟＝は、なんとチャーリー・パークーの難曲「My Little Suede Shoes」など2曲を熱演してくれた(写真右)。



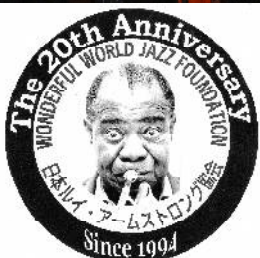
てガイド兼通訳、MCの大役をこなしてくれた。今年の「サッチモの旅」でも、空港でツアー一行を出迎え、ホテルまでのガイド役も。毎年「サッチモ・サマーフェスト」でお会いしている。1週間ほど休暇を取って帰国し、会場では“師匠”のドラマー、山本勇さんと大喜びの再会も。

そして、セインツの演奏中、ニューオリンズで活躍中のドラマー、まゆみさんが飛び入り(写真下の右端)。サバオさんに代わって1曲。まゆみさんは昨年夏、気仙沼のジュニアジャズオーケストラ「スウィング・ドルフィンズ」が渡米した際、一行に付き添っ

トリを務めたセインツが美女をともなって会場を回る。あちこちから美女に握手を求めて、手がさしのべられる。拍手喝采のフィナーレ。今年も思い出をいっぱい残してくれた「サッチモ祭」。みなさんまたお会いしましょう！！



華麗なる女性陣 写真左からナッチェス・ジャズバンドの白戸彩(cl)、ドラムカーズの花れん(vo)、ソウルフード・カフェの古川奈都子(p,v)、同じく中村好江(tp)、ドクター・デキシーセインツの河角小夜子(vo)、セカンドライナーズの田村麻紀子(cl)、同・北川智子さん、デキシー・ショーケースのグレース美香(vo)、セインツに飛び入りのまゆみ(ds)のみなさん＝かなり“撮りこぼし”の女性もあります。ごめんなさい！



今年はWJF設立20周年でもあり、記念に作成された缶バッジ
＝Photo by Yuzo Sato

- 主催 : 日本ルイ・アームストロング協会
- 協賛 : エビスビール記念館、(有) ノラミュージック
- 後援 : アメリカ大使館
- 協力 : サッポロビール株式会社
ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社

ご来場のジャズファンの皆様、出演バンドの皆様本当に有り難うございます！

「ネバー・エンディング・ストーリー」はまだまだ続いています

ジャズの故郷と結ぶ強い絆 ジャズの王様、サッチモを愛する仲間が集まって34年…

1981年、大丸屋上ビヤガーデンでスタート…当時大丸勤務、現在も大丸ユニオン・ジャズメンのリーダー肥後崎英二さん、私達デキシーセインツ、そしてニューオリンズを愛するアマチュアバンドの皆さんと、サッチモ没後10年目にスタートした“ニューオリンズ・ジャズ祭”でした。



1981年「サッチモ祭」生みの親3人。大丸ユニオン・ジャズメンのリーダー肥後崎英二さん(右)にインタビューする外山夫妻

その後、日本橋東急にも数年お世話になり、サッポロビール、エビスビール記念館で開催させていただいて早15年目になります。ハリケーン・カトリーナで被災したニューオリンズのために、皆さんが立ち上がって下さった、2005年10月緊急サッチモ祭、、、忘れることが出来ません。お世話になったサッポロビール、ビール記念館とご関係者の皆様、当時の岩間辰志サッポロビール社長に、心より深くお礼申し上げます。



2000年サッポロビール(株)のエビスビール記念館での開催当時の社長だった“大恩人”、岩間辰志さん(右)

ニューオリンズの子供たちへの楽器、ハリケーン支援、ニューオリンズから届いた恩返しの楽器。2012年、楽器を贈ってくれたニューオリンズの少年たちが被災地を訪問。2013年、ニューオリンズから楽器を贈られた子

供達のジャズバンド「スウィング・ドルフィンズ」がニューオリンズ訪問、、、色々なことがありました。

2012年サッチモ祭に出演した、熱血教師ローリンズ先生率いるニューオリンズの高校生達。覚えていらっしゃるでしょうか、、、彼らは来日がきっかけとなり、毎年フランスに招かれて演奏するようになりました。

津波で楽器をなくした子供たちに恩返しをと、ニューオリンズから贈られた楽器も夢を生んでいます。

楽器を贈られたバンドの卒業生の一人は、今年のクリスマス、高校生選抜チームで米カーネギーホールに出演する予定とのこと！！(下記に関連記事) 被災当時、小学5年生だった女の子、気仙沼スウィング・ドルフィンズのトランペッターが今は中学3年、リードトランペットを吹いています。石巻でスタートした子供たちのジュニアジャズバンド、スウィング・パイレーツも活躍を拡げています。

絶えることのない「ネバー・エンディング・ストーリー」は、まだまだ続いています。それもこれも、この「サッチモ祭」を支えてくれている皆様のおかげなのです。本日はご来場、本当にありがとうございます。
(外山喜雄・恵子)

**「フライトキッズ」OB、千葉隆壺君が新浦安でチャリティー公演
クリスマスには渡米、米カーネギーホールに高校生選抜チームで出演も**

大震災当時、中学卒業を間近に控えていた宮城・多賀城の小学生ジャズバンド「フライトキッズ」のOBトランペッター、千葉隆壺君(現・東北学院高校3年)が、高校生80人の選抜チームの一員として今年のクリスマスに渡米、あのカーネギーホール(大ホール)で吹奏楽を演奏することになった。

そんなニュースが伝わる中の11月3日、千葉君が両親と一緒に外山夫妻のお膝元、千葉・新浦安の「浦安市民プラザWave101」にやってきた。N.YELLウィンドオーケストラの「第2回東日本大震災 被災地応援コンサート」に出演するためだった。東北のバンド仲間3人でネットを通じて出演を申し込んだと言う。

長野雄行さんの指揮で52人の吹奏楽団が同日午後、



2公演。アナと雪の女王から「レット・イット・ゴー」など計9曲が演奏された(写真下段)。♪うさぎ追いし…の「ふるさと」では、千葉君のトランペットソロもフィーチャーされた

ほど(同上段)。サッチモ祭同様、入場無料で被災地支援の透明な募金箱が置かれ、千円札がいっぱい！

サクソ奏者、武田和大さんによると「私たちが被災地を応援するのはやはり音楽だと思ったんです。以来、被災地の子供たちに400点ほど楽器を送ってきました。ええ、集まった楽器を修理してくれるボランティアの方もいるんです」。そんな活動を通じて千葉さん一家とも結ばれていった。外山夫妻とWJFの活動が、

思わぬところで同じような形で広がっている。これもまた「ネバー・エンディング・ストーリー」に違いない。

外山喜雄 & デキシースейンツと行く「サッチモの旅」…いよいよニューヨークへ
ジャズとサッチモ、グルメ…おまけにヤンキー・スタジアム
サッチモの定宿、アポロ劇場、A列車、LAHM、墓参、ライブハウス、ハーレム・ジャズ博物館…

外山喜雄 & デキシースейンツと行く「サッチモの旅」の一行18人はジャズ尽くだったニューオリンズを離れ、8月4日(月)お昼前、まだまだたっぷりサッチモとジャズが待つニューヨークへ向かった。約2時間半のフライトでクイーンズ区のラガーディア空港に到着。専用バスで近年ツアーの定宿となっている豪華なウェリントンホテルに入った。前号ニューオリンズに次いで今回は「サッチモの旅」ニューヨーク編をお届けします。(小泉良夫)

サッチモのニューヨーク公演の定宿に到着
初日夜からJAZZ「マンデー・ナイトJAM」

ウェリントンホテルのある7番街55丁目。周辺はかつてライブハウスも多かったといわれ、同ホテルはサッチモの定宿でもあった。今年のツアーは、ニューヨークもジャズまたジャズ…。到着初日からニューヨークを中心に活躍している国際的プロデューサー、カツ阿部(阿部勝弥=ニューヘリテージ・シアター・グループ)さんの仲介で、さっそく48丁目の米ジャズ・ファンデーションの「マンデー・ナイトJAM」へ。

全米やニューヨーク音楽家連盟などが入るビル内のステージでは、すでにピアノトリオが演奏中。かなりモダンジ

ャズっぽい演奏が続く。そこへセインツが登場。「君微笑めば」「A列車で行こう」「ピーター・パンサー・パター」「ハロー・ドーリー!」「ケイコズ・ブギー」などたっぷり聴かせ、聴衆は少ななかったが、みんな大喜び(写真下の上段。下段は同ビル前での記念写真)。



夕食はみんなで49丁目の和風レストラン「SAPPORO」へ。和食、カレー、各種ラーメン、味噌汁、枝豆、冷や奴、日本酒…何でもありのまさに日本の“大衆食堂”。ニューヨークに来るたびに足繁く通ってしまう。今年も何度も行ってしまったが、あるとき隣の席にいかにも爽やかな

青年が2人、向かい合って座り、ラーメンを食べ始めた。きりっとしたダークスーツにネクタイ姿。勤めを終えて帰りがけに立ち寄った感じ。にこやかに話し合っている日本語が耳に入り、つい「日本の方ですか?」なんて聞いてしまった。「ええ」とにっこり。「よく、ここにくるんですか?」と聞くと、「ここは、僕たちの“心の支え”ですからねえ」の返答にすっかり嬉しくなってしまった。2人とも某銀行の紙袋を持っていたから、ニューヨーク勤務の銀行員だろう。

こんな爽やかな日本の若者たちが、2001. 9. 11のWTCテロで犠牲になってしまったことを考えると、な



ルイ・アームストロング・ハウス・ミュージアムに近い「LOUIS ARMSTRONG PLACE」の標識前で。写真左から本多幸治、坂下泉、山田隆義、サバオ渡辺、外山喜雄、石井一、外山恵子、磯野博子(恵子さんの後ろ)藤崎羊一、(後ろへ)古川博、渡部一勝、佐藤修、佐藤美智子、広津誠、中村宏、小泉良夫、(磯野さんの右、かがんでいる二人)中村美代子、小泉富子のみなさん

んか目が潤んでしまう。「あなた方は日本の誇り。頑張ってくださいね」なあって言ってしまった。

ガイドさんが「ニューヨークには、中国と韓国の方が圧倒的に多くて日本人は少ないんですよ」などと言っていたが、まあ数は少なくとも、彼らを見る限り、まったく問題はありませんね。「国を出てNYCに住みついた人たちと、国のために働いている人たちの違いでしょうね」とガイドさんに問いかけてみると「まったくその通りです」と。

ルイ・アームストロング・ハウス・ミュージアム訪問 記念品やCD、書籍…ステキなお土産もいっぱい

翌5日(火)は、午前9時発でクイーンズ区コロナのルイ・アームストロング・ハウス・ミュージアム(LAHM=マイケル・コグスウェル館長)へ。1943年からサッチモが亡くなる71年までルシール夫人と暮らしていた煉瓦造り、3階建ての自宅。セントラルパークの近くに豪邸でも買えそうなスーパースターだったサッチモにしては、かなり質素な佇まいだ。

道路に面した正面1階(サッチモ邸としては地階)は、記念品やCD、書籍などのスーベニール・ショップと奥にこじんまりとしたサッチモのトランペットや写真などの展示室兼映写室がある。建物の隣にはコグスウェルさん自慢の日本庭園。リスも遊ぶ木々に囲まれた広い芝生と花壇、小さな池の中には鯉が泳いでいる。いつだったかここに小学生くらいの子供たちが数十人“課外授業”といった感じで訪れてきてセインツが演奏して、喜ばれたことがある。

LAHMに着くや外山さんがさっそく高らかに1曲(写真上



の上段)。いつもならこれを聞いて隣の名物おばさん、セルマ・ヘラルドさん(11年暮れに他界=享年88歳)が「あら、来ましたのね」と笑顔を見せるのだが…。セルマさんはサッチモのヨーロッパ・ツアーに同行して毎日、サッチモの、あの白いハンカチを150枚も洗ってあげていたという。ツアー中、彼は、まだ若かったセルマさんのことを心配して、セルマさんの部屋の鍵穴をふさいだこともあったとか。

セルマさんが亡くなったとき、彼女は遺言でこの自宅をすべてLAHMに寄贈した(写真左下、中段の左がサッチモ邸、右が故セルマさん宅)。いまはクイーンズ大学のアーカイブからサッチモ関係の資料をここに移し、道路を隔てた向かいの空き地に建つ予定の(数年前から「来年、完成します」と言っているが、なぜか、いまだに手がつけられていない)「ビジターズ・センター」での展示を待っているそうだ。

貴重な遺品など生前の暮らしをそのまま伝える 意外に質素!…が、金色に輝くピカピカの浴室

ツアー一行半分ずつ、ガイドのLAHMスタッフとともにサッチモ邸内見学へ。サッチモが近所の子供たちにトランペットを教えているシーンなどでお馴染みの煉瓦造りの階段を上って1階へ。各地を演奏旅行で廻った際の記念品やらコレクションで飾られたリビングルーム、祭壇もある寝室(彼はここで息を引き取った)。ルシール夫人が腕を振るったキッチン。レンジが6基、オーブンが2基、戸棚も、引き出しも、前面がブルーで統一され、必需品はすべて隠されて何も見えず、キッチンとはとても思えない、何ともすっきりした空間。

腰掛け付きのリフトが手すりに取り付けられている階段で2階へ。これを作ったとき、サッチモは「わしはまだ、そんなにもうろくしていないんだ!」と怒ったとか。上つてすぐ先に浴室。ちょっと見た目は、こじんまりとしたスペースだが、全面鏡張り、金属類はすべてゴールドでぴかぴかの金色(写真左上の下段)。これは必見。そして、もっぱら彼が閉じ込めていた書斎(den)。



リールのテープレコーダーが2基、レコードプレーヤーやアンプ…当時としてはどれも最高級で最先端をいていたものだろう(写真左上=LAHMの絵

はがきから。私が大好きな1枚、このサッチモの真剣なまな

ざしがいい!。「みんなルシールが揃えてくれたんだ。いままでこんなものは見たこともない。完全にノックアウトされたよ」とサッチモの感想がパンフにもあった。そんなサッチモの声が天井から流れてくる。自宅にいるときはここで終日、ダビングしたり、つなぎ合わせたり…来客との対話など、ほとんどすべてを録音している。

面白いのは、それら650本ものテープのケース(7インチ角)にいろいろなスナップや記念写真、ジャケット写真、絵はがき、さらにはプログラムや新聞・雑誌の記事などを切り抜いて、丹念に彼独特のコラージュで飾っている。それらのケースにはナンバーがつけられ、大型のノートに収録曲や内容をも、すべて彼お好みのグリーンボールペンで細かく書き残している。

これらサッチモ邸のことやルイのコレクションなどについては、コグスウェルさんの著書『LOUIS ARMSTRONG ~THE OFFSTAGE OF SATCHMO』に詳しい。

1954年のサッチモの日本公演の看板やら和服姿可愛い女の子がサッチモの右膝にちょこんと腰を下ろして笑っている写真(写真説明には、**天皇家陛下のご令嬢「Takako Suganomiya」**=清宮貴子さまとあるが…!?)など写真もいっぱい掲載されていて興味深い。

2005年のハリケーン直前にニューオーリンズのサッチモ・サマーフェストに行った際、この本が発行された直後だっ



たので、ジャズ博物館にいらしたコグスウェルさんと序文を書いているダン・モーガンスターンさん(元ダウンビート誌

編集長)にサインまでしてもらって買って来た、私の貴重な蔵書。

サッチモと夫人が眠るフラッシング墓地へ セインツが♪ハッピー・バースデーを演奏

サッチモとルシール夫人が眠るフラッシング墓地へ廻る。



セルマさんも同じ墓地というので以前みんなでそのお墓を探したこともあったが見付けられなかった。例年のように恵子さんら女性陣の“フラワー・シスターズ”が献花し、セインツが♪ハッピー・バースデーなどを演奏(写真左)…そう、この日、8

月4日が本当のサッチモの誕生日なのだ。外山夫妻にたっぷりインタビューしてLAHMからずっと密着していた実験的フィルムメーカーと名乗る(なんか難しい発音の)Joel Schlemowitz氏が、ここでも盛んにビデオカメラを回す。外山さんによると「ジャズフェスティバルなどで紹介したいそうです」。外山夫妻はもとより、「サッチモの旅」もかなりグローバルになっているのかなあ。

昼食は昨年同様、ミッドタウンに戻り、広々と豪華で超人気のイタリアンレストラン「CARMINE(カーマイン)」本店。スパゲッティなどは、ほんの“前菜”だというイタリア料理を、これでもか!というほど味わう(写真左)。終わってミニ観光。グラウンドゼロ(世界貿易センター跡)もかなり整備が進んで、米独立の年にちなんだ高さ1779フィートのビルはほぼ全容をみせ、周辺の公園も整備され立ち入ることが許されていた。死亡した市消防士らの名前が刻まれた碑文のある池の周辺を巡る。あの爽やかな銀行員のような日本人若者も、ここで命を落としているのですよね。合掌!



ライブハウスでは懐かしのフルバンド堪能 ダンスに興じるカップル、外山さんも熱演

夜は、54丁目のライブハウス「イグアナ」で、グラミー賞受賞ミュージシャン、ピンス・ジオグラノー率いる「ナイトホークス」のステージを楽しむ。昨年までのエディソンホテルのステージが改修中でこちらに移ってきているが、1920年代のフルバンドのムードを今に伝えるバンド演奏は全く変わらず。外山さんが加わり「スターダスト」などトランペットの演奏も交えて3曲を歌う(写真左)。例年のように素晴らしいダンスを披露するカップルが目白押し。

1953年のJ.A.T.P.来日記念写真が贈呈され ハーレム・ジャズ博物館で日米交流に花が咲く

6日(水)は、いよいよハーレム。まずは126th、パークアベニュー先にある「ハーレム・ジャズ博物館」(The National Jazz Museum in Harlem)へ。同博物館へのJATP来日記念写真を贈呈するためだ。館長のローレン・ショーンバーグさん、アシスタントのイレヌ・トンプソンさんらが出迎えてくれる。

贈った写真(写真下)は、1953年11月2日正午、ノーマン・グランツ(米プロデューサー)率いるジャズ・グループ「J.A.T.P.」(Jazz at the Philharmonic)のメンバー30人超がパンアメリカン航空で羽田空港に到着した際、出迎えた日本のミュージシャンらと記念写真に収まったものの。

今回、このサッチモ・ツアーに参加された石井一さん(元自治大臣、衆参議院議員)は、このまさに夢のような超ド級のジャズマンたちの

来日と深くかかわっている。このJATPの来日は、実は、当時日本マーキュリーレコードの社長だった石井さんのお父様、石井廣治さんが、大英断をもって実現させたもの。

上の写真の中央、松本英彦さんの向かって右が石井一さん。当時18歳の高校3年生だった石井さんは、この記念撮影の後、まさにビンテージものの高級外車を20台も連ねた銀座・日劇までの、お父様が発案のオープンカー・パレードで、ノーマン・グランツと廣治さんを乗せて先頭のクライスラーを運転したという。お父上の廣治さん(写真前列、かがんでいる方の右から2人目)が当時、日本マーキュリーレコードの社長をしていて、私財をなげうってこの企画を受け入れた。この写真は、ポニーキャニオン社長など要職を歴任された佐藤修さんの貴重なジャズ・コレクションの1つ

として偶然発見され、数年前石井さんにプレゼントしていた。今年4月のインターナショナル・ジャズデイで、ジャズデイの大阪招聘を実現させた前述の国際的プロデューサー

一、カツ阿部さんにメールで見てもらったところ、大変感激、これこそ元祖インターナショナル・ジャズデイだ！是非、NYハーレムのジャズ博物館に寄贈して頂きたい…という話になった。

石井一さん、佐藤修さん、お二方とも今年のツアーにご参加、加えて、JATP日劇公演をリアルタイムでご覧になった中村宏さんご夫妻で、また、名ジャズ司会者故いソノテルフさんのご夫人で、JATPで来日したオスカー・ピーターソンらジャズメンとも深い交流があり、ご夫妻の新婚旅行ではサッチモのアメリカツ

アーへも同行したという磯野博子さんもご参加と、まるでサッチモとJATPの霊が呼び寄せたような、ハーレム・ジャズ

博物館訪問となった。写真の新聞紙大コピーを佐藤さんが直接、博物館にプレゼントした。もちろん阿部さんにも1枚。

この写真を一見見て、ローレンさんは次々と

名前を口にしながら、アーティストを指さしていった。写真説明には、英文で名前が次のように示されていた。

左から **ロイ・エルドリッチ**(tp)42、**ジェイシー・ハード**(ds)35、**チャーリー・シェイヴァース**(tp)36、**ウィリー・スミス**(as)44、**ジョージ川口**(ds)26、**中村八大**(p)22、**小野満**(b)24、**ベニー・カーター**(as)46、**江利チエミ**(vo)16、**笈田敏夫**(vo)28、**エラ・フィッツジェラルド**(vo)35、**松本英彦**(ts)27、**石井一**18、**ノーマン・グランツ**(producer)35、**フィリップ・フィリップス**(ts)38、**新倉美子**(vo)、**ジーン・クルーパー**(ds)44、**オスカー・ピーターソン**(p)28、**石井廣治**(石井一さんの父親、日本マーキュリーレコード社長)47、**ビル・ハリス**(tb)36、**ハーブ・エリス**(g)33、**レイ・ブラウン**(b)26、**ベン・ウェブスター**(ts)44 (数字は年齢、撮影者は不明)



このJATP来日の背景と、当時の思い出を、流ちょうな英語でユーモラスに披露された石井さん…お礼の挨拶に立った館長のショーニングバーグさんから、またまた感激のエピソードが…(前ページ上の写真、記事は最終面にも掲載)。

アポロ劇場で「アマチュアナイト」を鑑賞 日本の櫻さんも着物姿で熱唱したが…

ジャズ博物館近くのレストランで早めの夕食、ソールフードをとって、さあアポロ劇場での「アマチュアナイト」鑑賞。アマチュアナイトは毎週水曜日の午後7時半から開催されている、いわばアマチュアの“勝ち抜き芸能合戦”。ボーカルはもちろん、マイケル・ジャクソン風のダンス・グループ、タップダンス、ピアノの弾き語り…何でもあり。2組の若者たちが次々登場して、その都度、観衆の拍手と歓声の大きさが音量計で計られ、ステージの大スクリーンに映し出されたデジタルの数字の大きさを勝者が決められる。「皆さん大声を出してくださいよ」というのだから会場は大騒ぎとなる。

この日、阿部さんも推薦する日本のシンガー・ソング・ライター、櫻-sakura-さんが着物姿で登場し(写真上)、会場を沸かせたが、勝ち残れなかった。応援団の声が小さかったかなあ。「私、泣いちゃった」と櫻さん。阿部さんの話では、いつもアジア人が一番人気とか。グランド・チャンピオンには1万ドルが贈られるという。



プロデューサーのマリオン・キャフィーさん(写真



右上の後列中央)が別れ際に挨拶に来られ、「このようなイベントを日本でも、やってみたらいかがですか」と話していた。♪You must take the A train…A列車で帰路につく。

ヤンキー・スタジアムでMLBの熱戦を観戦… ヘレン・メルルさんとの再会を楽しんだ方々も

7日(木)は、初めての“終日自由行動”。「今年は滞在中ずっとヤンキー・スタジアムで試合があります」というイベントのベシスト、藤崎羊一さん(元甲子園球児=東海大相模で出場3回、決勝1回=原辰徳さんとクリーンアップを打っていた)の情報で、私たちは、早いうちから「今年はヤンキー・スタジアム！」と決めていた。毎年、ヤンキースや

メッツ球場に出かけている藤崎さんに事前に、ダイヤモンドを見下ろす内野席3階の素晴らしい席を取ってもらっていた。この日は対タイガース戦のデーゲーム。投げたばかりの黒田投手、DL入り田中マー君の両投手の出番はなかったが、イチローが8番ライトで先発出場し3打数2安打。1-0でヤンキースが辛勝した。一行7人、Tシャツやら帽子を買って大満足。往復の地下鉄も素晴らしい経験だった。…おっと、レポートがジャズから大脱線してしまった。

一方、外山さんによると、中村、佐藤、外山3夫妻と磯野さんはヘレン・メルルさんを訪ねて歓談、近くの和風レストランで和食と日本酒を楽しんだ。あの♪ユード・ビー・ソーンアイス~の大ヒット、“NYのため息”と呼ばれたヘレン・メルルさん、実は1966年から72年まで日本に住んでいて、日本ともゆかりの深い方。当時からとても親しい友人としてお付き合いをされていた、中村宏さんご夫妻、磯野博子さんと、毎年ヘレンさんのお宅を訪問、近くの日本料理店で食事をするのが恒例となっている(写真下)。日本のブルーノート



等に最近も来日、ン10歳を超えてもまだまだお綺麗で素敵なヘレンさんと、中村夫人、磯野さんが腕

を組み、佐藤夫人、外山恵子も加わり、女学生仲間のようにはじめながらNYの歩道を歩くのが、8月のはじめの恒例行事となっている。特に今年は、ヘレンさんが、全米作曲家作詞家



ジャズ・モービル(ルイ・アームストロング教育基金)ディレクター、ロビン・ベル・ステイブンスさん(中央)に新品のトランペット2本を贈る=8日、ウェリントンホテルで。右は阿部さんと櫻さん

出版社協会(通称ASCAP)から表彰を受けられ、これをお祝いする会ともなった。ASCAP、ジャズ・ウォール・オブ・フェイム(名声の壁)の表彰は、ベッシー・スミス

等が受賞しているが、歌手は大変少ない。

8日(金)、JFK空港から成田へ。約14時間のフライトだが、映画や音楽、ゲーム、読書、飲食、おしゃべり…たっぷり楽しんで9泊11日の「サッチモの旅」を締めくくった。

ハロウィーン盛り上げたサッチモとディズニーの楽しいデキシード・ジャズの世界

三菱自動車東日本大震災チャリティライブ in October

ハロウィーンの10月31日、渋谷などでは着飾った若者たちが多く集まっていたようです。ここJR田町駅に近い東京・港区芝の三菱自動車本社ショールームでは、『東日本大震災チャリティライブ』と銘うったミニコンサートが毎月末金曜日の夕方、開催されていてこの日は、『外山喜雄とデキシーセインツ〜サッチモとディズニーの楽しいデキシード・ジャズの世界〜』のライブが開かれた(写真右)。

普段は、多くの新車が所狭しと陳列されていて、3人ほどの美人コンパニオンが常時説明に追われているそうです。傍らに有名コーヒョップも併設されている。

午後6時半開演。司会の原未沙さんが外山さんのプロフィールを紹介し終わると同時に、セインツが演奏をしながらいよいよ登場。会場にはいつもの演奏会の3倍ぐらいの来場者が聴きにこられたそうで、近所の方々やジャズのお好きな方々で、即席に作られた椅子席はすぐに満席。後ろの方も立ち見席で満員となった。



演奏が始まると、すぐに盛り上がり、特に、『スウィングしなけりや意味がない』の曲では、外山さんがお客さんに声を掛け、一緒に歌ってみなさん一流のジャズボーカリスト! ?になり、体中が熱くなる。途中からハロウィーンの可愛い洋服を着飾った2人のお子さんが親御さんと来られ、前の方に着席。演奏途中からリズムに誘われ舞台上に登場、セインツのメンバーと一緒に踊りだし(写真下)、会場の雰囲気はニューオリンズそのもの。

予定時間が過ぎ、最後にアンコールにこたえて、『この素晴らしき世界』でお開きになる。チャリティ募金と恵子さん初のリーダーアルバムCDを購入して、みなさん満足した顔、顔...でお帰りになった。



(写真&レポート:奥村清文)

セインツは引き続き“ジャズのまち”宇都宮へ！こちら「東日本大震災の復旧・復興を応援」『MIYA JAZZ INN』の開幕を告げるデキシーパレードとコンサートにゲスト出演

外山夫妻とデキシーセインツ一行は、この三菱自動車本社ショールームでのミニコンサートのあと、そのまま車で“ジャズのまち”宇都宮へ急行。翌11月1〜2日、同市内で開催される『MIYA JAZZ INN』の開幕を告げるデキシーパレードとメイン会場でのコンサートにゲスト出演するためだ。こちら「東日本大震災の復旧・復興を応援しよう」がメインテーマ。1974年に始まったというこのイベント、今年も市内6会場で2日間、全国からの約90バンド(参加者600人超)が出演した。

この日はあいにくの小雨がぱらつくなかでの雨天決行！パレードとなったが、コースはほとんど大きなアーケードのある商店街通り。セインツに続いて地元の姿川第1小学校吹奏楽部が元気に行進する(写真上)。メイン会場でのセインツの演奏の前にこの子供たち(2〜6年生約30人)が素晴らしい演奏をきかせてくれた。ジャズの名曲『イン・ザ・ムード』では、



恵子さん(中央=bj)と広津誠さん(左端=cl)による「スワニー河」

セインツもステージに出てきて共演したほど。セインツの演奏も最高の盛り上がりを見せ、隣席のお年寄りも大感激。

「セインツはいいなあ。毎年聴きにきているんですよ」と。

宇都宮は“餃子のまち”、それに“カクテルのまち”でもあり、餃子祭りが併催されていた。「美味しいお店を紹介して下さい」とこの方に伺うと、即2店の名前が跳ね返ってきた。「ファンは両派に別れているんです」とか。帰りがけにこちらもたっぷりはしごさせてもらおう。両店とも長蛇の列だった。

会場で「うつのみやジャズのまち委員会」委員長の吉原郷之典さん夫妻、元教育委員長の藤原宏史さんらがにこやかに出迎えてくれた。両氏は先ごろNPO法人「スウィングタウン協会」

(吉原理事長)を発足させて、ますますスウィングーな活動を繰り広げている。吉原さんらは、常々WJFの活動にも協力してくれている力強いジャズの仲間。今後ともよろしく！

両コンサートとも、セインツのメンバーは、外山喜雄(tp,vo)、外山恵子(p,bj)、粉川忠範(tb)、広津誠(cl)、藤崎羊一(b)、サバオ渡辺(ds)のみなさん。

**懐かしのTV番組「シャボン玉ホリデー」再現
玉川高島屋S・Cで「ハッピー・ジャズライブ」**

『THE 大人たちの JOYFULL NIGHT@TAMAGAWA』—このデキシーセインツの“ハッピー・ジャズライブ”は、いつものライブとはちょっと趣が違っていた。その一つはジャズコーラスグループ「La CHANCO シスターズ」が加わったこと、そして、あの懐かしいTV番組『シャボン玉ホリデー』でお馴染みの曲が、次々と飛び出したからだった。9月19日、東京・世田谷区の玉川高島屋S・C西館1Fアリーナホールは約150人のファンで賑わった。

「笑うシニア商会」企画第17弾とあって、シニアの姿も目立ち、結構常連さんも少なくなさそうだった。午後6時開場で開演は同7時。おや1時間も！？それが、設けられた各テーブルでの軽食と1ドリンク付きとあって楽しいおしゃべりのなか、時間を気にせず、すぐに開演となった感じ。

地元エフエム世田谷のアナウンサー、いとう美都世さんの司会で、まず外山喜雄・恵子夫妻がステージに立ち、若き日々、ニューオリンズでの5年間の思い出などユーモラスに語りかける。大学のジャズクラブ、50人もの部員の中で紅一点だった恵子さんは、外山さんと結婚する。外山さん、いったんは就職したものの、ジャズとサッチモの魅力に惹かれて、新婦恵子さんともどもニューオリンズへ渡る。

「私、以前サッチモとルイ・アームストロング」は別の人かと思っていたんです」と笑わせたMCいとうさんが、恵子さんに絶妙の一発。「紅一点の恵子さんが50人の中から外山さんを選んだのは？」ときて、恵子さん、一瞬ウツ！と詰まったが、すかさず「見る目があったんです」。会場爆笑！

そんな中で始まった第1部は「懐かしのニューオリンズ」に



始まり、「バーボンストリート・パレード」、「バイズンストリート・ブルース」、「5つの銅貨」(3重奏シーン)、「ハロー・ドリーー」、「セカンドライン」…と、すっかりニューオリンズに引き込む。当時、楽器を買えなかったニューオリンズの貧しい人たちは、ジャズをこんな風にと…櫛、ビニール袋、ペットボトル、スプーンやら、妙なおもちゃの笛、そう、ウォッシュボード(洗濯板)も出てきて“がらくた大合奏”まで。

休憩を挟んで(有料ドリンク追加も大人気)第2部は、恵子さんのリーダーアルバムにも収録されている「バイバイ・ブルース」でスタート。ついで、コーラスグループ(伴真理子、池谷京子、山崎さと子)が入って、ハナ肇とクレージーキャッツ&ザ・ピーナッツの『シャボン玉ホリデー』風ステージが整う。ハナ肇さん役は外山さん、そしてセインツの恵子、広津誠、粉川忠範、藤崎羊一、サバオ渡辺のみなさん。シャボン玉ホリデーのオープニング・テーマや「恋のバカンス」「情熱の花」などのメドレー、エンディング・テーマの「スターダスト」…“シャボン玉ホリデー世代”(第1期=1961~1972)は、結構ジャズに親しんだ人たちが多くいんですよ。もちろん大受け。

サバオさんと藤崎さんの絶妙のコンビ「ビッグ・ノイズ・フロム・ウィネトカ」やら「ダウン・バイ・ザ・リバーサイド」、「素敵なあなた」(写真下)も素晴らしかった。最後は「聖者の行進」がセカンドラインの傘を従えて会場を回る。アンコールに応じて「この素晴らしき世界」…。素晴らしいステージにシニアのみなさんの笑顔が会場をあとにした。

そっと書き添えますが、この日の恵子さんは、風邪による大変な熱発で38度5分！ 全身もうろうとしていたんです。それでもよく頑張っていました。自宅に着いたとたんダウン。すぐに元気は取り戻したそうですが…。

♪シャボン玉 ルルルルルル シャボン玉
ララララララ ロマ〜ンチックな夢ね まる〜いす
てきな夢ね リズムに乗って 運んでくるのね ホリデー ホリデー
シャ〜ボン玉 シャボン玉 ホリデー

(小泉良夫、写真:相馬威宣さん)

第24回定禅寺ストリートジャズフェスティバルin仙台(9月13~14日)から



外山夫妻と「スウィング・ドルフィンズ」のみなさん(写真左上)、被災当時、最年少の小学5年生だった岩瀬天音さんは中学3年生で、今やリードトランペッター(同右上)、同下中央は外山夫妻(左)と佐々木孝夫さん(中央=みやぎ音楽支援ネットワーク)と指揮者の須藤文市さん夫妻(右)、写真下の右は、この写真を提供して下さった宮城健さん(WJF会員=毎度ご協力ありがとうございます！)

今年も素晴しかった“サッチモ心の旅”
NYCで感激のストーリーが飛び出す
JATP来日とベニー・カーター夫人の思い出

1953年に実現した日本初の超大ジャズイベント、JATP 初来日。この“事件”で日本のジャズブームは始まったと言っても過言ではない。JATPの11月来日に続く翌月には、サッチモ・オールスターズが来日している(でも、JATPですっかりお金を使い果たしたジャズファンは金欠病で、サッチモ公演の入りが芳しくなかったという)。

今回この「サッチモの旅」ツアーに単身参加された石井一さん。お父様の石井廣治さんは当時日本マーキュリーレコ

ードの社長で、JATPの来日を私財を投げうって実現させた。お父様とJATP、そして、古き良き時代のジャズへの熱い想いを胸に秘めた石井さんのご参加からして不思議な縁(えにし)。しかも、JATP羽田到着時の記念撮影写真がNYハーレム・ジャズ博物館に寄贈されることになり、贈呈式で石井さんはスピーチに立ち、オープンカー20台を連ねたパレード等、当時のエピソードを英語で披露された。

そして、その後、お礼の挨拶に立ったジャズ博物館館長、ローレン・ショーンバーグさんから、感激のストーリーが飛び出した(写真上)。

「石井さん、佐藤さん、貴重なJATPの写真をありがとうございます。私はこの時、JATPで訪日した、アルトサクスのベニー・カーターさんとは親しい友人で、亡くなられた後



ビッグ4の面々と江利チエミ、笈田敏夫、ノーマン・グランツ、ベニー・カーター(後列花束を持つ)、エラ・フィッツジェラルド、そして石井一さん。



▼みなさまとクリスマスパーティーでお会いするのを楽しみにしています。(山)

ご寄付と嬉しいお手紙
ありがとうございます

- ◆大竹明子様 (東京・北区) トロンボーン
スライド・トランペット
- ◆井上和弘様 (大阪市) 30,000円

も奥様によく電話をしています。実は、この写真が寄贈されることをカーター夫人にお話したところ、とても喜んで、こんな話をしてくれました」

＜ベニーはね、この時の日本訪問にとっても感激して、いつもその話をしていたんですよ。特にあのオープンカー・パレード…空港(羽田)からホテルまで、沿道は人で一杯だったそうです！アメリカでは人種差別が激しくて、黒人のジャズがこんな大歓迎を受けたことなんて初めてだ…と言ってね…一生、ベニーは、東洋の国、日本で大歓迎を受けた驚きと感激が忘れられなかったんですよ＞

やはり、霊はこの世に存在する…そう思いたくなるエピソードが今年も一杯のニューオーリンズ・NY「サッチモ心の旅」でした！！
 (外山喜雄)

募集中

♪ジャズを愛する皆様

どうか会員になって下さい！！

また皆様のお知り合いの方々に
 ぜひ、WJFへのご入会をお勧め下さい

=WJF年会費=

- 一般会員(General Membership) ¥6,000
- 学生会員(Student Membership) ¥3,000
- 賛助会員(Friends of Louis Armstrong) ¥12,000

■会費のお振込み先■

郵便振替 00110-4-415986

ワンダフルワールド・J・F

銀行振込 三菱東京 UFJ 銀行浦安駅前支店

普通:5175119“ワンダフルワールド”

お問い合わせは:WJF事務局

TEL: 047-351-4464

Fax : 047-355-1004

Email:saints@js9.so-net.ne.jp

日本ルイ・アームストロング協会HP

検索エンジン:Yahoo,Google で

<検索>ルイ・アームストロング

<http://members3.jcom.home.ne.jp/wjf/>

編集長から

秋のイベントとして定着した感のある「サッチモ祭」。今年もエビスビール記念館で開催されました。私は長年、サッチモ祭にMCとして参加してきたのですが、今回は都合で欠席でした。▼それだけにトップページからのパレードの模様や参加16バンドの演奏シーンからはジャズ・サウンドが聞こえてくるようです。“華麗なる女性陣”女性ブレイヤー達とゲストの水森亜土さん&ローズマリー・ダンサーズの写真も紙面に彩りをそえていますね。現場で見たかったです。▼「サッチモの旅/ニューヨーク編」のなかでもサッチモ・ハウス・ミュージアム訪問記でのルイのコレクションのエピソードは興味深いレポート。また、ハーレム・ジャズ博物館へ佐藤修さんからJATP来日記念写真が贈呈され、当時のジャズメンの想い出話で盛り上がる日米ジャズ交流もWJFならではの記事。▼横濱ジャズプロムナードなど全国各地での精力的な演奏活動で、外山喜雄&デキシーセイブはこの秋のジャズフェスティバルを代表する顔となったようです。▼